

雲漢集概要

1: 文書群番号	073001
2: 文書群名	雲漢集
3: 出所	市川新太郎氏
4: 家業・役職等	未詳
5: 地名	-
6: 行政区分	-
7: 歴史	『雲漢集』の著者は尼崎藩儒者の中谷雲漢（享和2年・1802～明治8年・1875）。名は輝、字は南明、号は龍寿軒。雲漢は師の藤沢東咳の推挙により尼崎藩に仕官したと言われている。明治3年（1870）に開校した藩校正業館の督学。雲漢は弘化4年（1847）～明治3年（1870）まで私塾止善舎を開いていたが、正業館の開校時に廃止となった。正業館が開校されると、雲漢を最高責任者である督学に迎え、文武場を中心とする伝統的な教学体制をはかった。正業館の校舎は寺町全昌寺東側の旧開明小学校の敷地にあり、本館（藩士子弟）に東寮・西寮の二寮（庶民）が付設され教育が行なわれた。明治4～5年頃には教師36人、生徒620人を擁していたが、同5年尼崎県の廃止に伴い正業館は廃校となった。
8: 伝来	柏原農協組合長・市川新太郎氏が昭和2年（1927）に本史料を古書籍商より購入。同48年、市史編さん室が新太郎氏より寄贈を受けた。平成16年（2004）7・8月に整理・目録作成を完了した。
9: 史料入手先	市川新太郎氏（原蔵者）
10: 点数	4点（目録件数4件）
11: 年代	明治17年（1884）
12: 構造と内容	本史料群は尼崎藩の儒者、藩校正業館の督学であった中谷雲漢の著作集『雲漢集』（全三冊一木版）と、その納本書からなる。『雲漢集』は雲漢の死後に発行された。各巻の構成の概要は次のようになっている。 上巻…漢詩抄、正業館の積奠等 中巻…絵画・像等の美術作品の解説、論説、記文、祭文等 下巻…雲漢作成の墓碑銘を中心とする碑誌 また、各巻の随所から師藤沢東咳との交流の深さをうかがうことができる。
13: 関連史料	-
14: 閲覧条件	原本
15: 作成者	近藤 浩二